

立春



学校図書館だより

2月号

令和5年2月
柏市立富勢中学校
柏市学校図書館指導員
岩瀬 瞳

暦の上では春となりましたが、寒い日が続きますね。それでも街を歩いていると、良い香りとともに梅の花が開いているのを見つけ、春の訪れを感じさせます。図書館から見える中庭の梅の開花は、毎年ゆっくりですが、木々にはつぼみがいっぱいです。厳しい冬を越え、今か今かと花開く時を待っています。私たちも、体調に気をつけて、新しい春に向かってもう一息がんばりましょう。

2月の夜空に輝く散開星団 すばる(プレアデス星団)

この時期の夜空に輝くおうし座にあるプレアデス星団は、日本では古くから「すばる」の名で呼び親しまれてきました。『枕草子』にも登場し、清少納言も美しい星として「すばる」を挙げています。数百もの恒星があつまってできている散開星団(数十から数百個の星が比較的ゆるく集合した星団。生まれて間もない星の集団。「天文学辞典」公益財団法人日本天文学会より)で、肉眼でも明るい6つの星を見ることができます。すばるには、世界中に伝承があるので、星の神話や伝説を楽しむのもいいですね。
(『季節を愉しむ366日』三浦康子 朝日新聞出版社、『星の神話・伝説図鑑』藤井旭 ポプラ社)

□■芥川賞・直木賞□■□

～1月・7月は芥川賞・直木賞の発表月です～

芥川賞は雑誌(同人雑誌を含む)に発表された新進作家による純文学の中・短編から選出され、直木賞は新進・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本(長編小説もしくは短編集)から選出される賞です。気になる一冊はありますか?(1/19日発表)

【出典】公益財団法人 日本文学振興会 <https://www.bunshun.co.jp/shinkoukai/>

168回芥川賞

「この世の喜びよ」井戸川射子著
「荒地の家族」佐藤厚志著

168回直木賞

「地図と拳」小川哲著
「しろがねの葉」千早茜著



学校図書館よりお知らせ

まだまだ寒い日が続きますね。図書館では、3学期分の新着本が、絵本などを中心に少しですが入っています。前方の机に展示していますので、ぜひ手に取ってみてくださいね。2月、3月にある「おはなし給食」もお楽しみに!!

★3年生の皆さんへ

3年生の最終貸出は

2月 28日(火)

最終返却は

3月 7日(火)です。



今月のおすすめ本

新着本より

『6カ国転校生ナージャの発見』

キリーロバ・ナージャ 著 集英社インターナショナル
(NDC913)

両親の転勤で、6つの国、4つの言葉で学んだナージャ。学校では、机の並べ方、筆記用具、テスト、ランチ、国によって全く違った!「正解」が変わり続ける環境の中で、ナージャが発見したことは…。

当たり前も常識も、一歩外に出ればこんなにも違っている。「学校」にもいろいろあるのですね。そして学校にいる一人一人も違って当然、それぞれの色がある。多様性とは何か、違うことから発見する喜びを、一緒に考えてみませんか。

『作家たちの17歳』

千葉俊二 著 岩波書店 (NDC910)

十七歳、誰もまだ「文豪」じゃなかった——太宰治は作家になろうと決意し、宮沢賢治は進路をめぐって父に反発、芥川龍之介は友達と雑誌を作り、谷崎潤一郎は苦学生だった。夏目漱石は下宿で受験勉強し、樋口一葉は父と兄を亡くして一家を背負うことになる。作家たちの十代とその決断を、当時の日記や創作とともに紹介。

十代の後半をどう生きるかということが、その後の人生にとって大切になる。みなさんの十代を、力いっぱい進んでいくために、読んでみてください。

※「情報BOXライブラリーサーチ」の紹介文を引用しています。